オークビレッジ柏の葉で
農業体験を楽しむ親子

キッザニアの子どもたち

近代資本主義の時代から、新しい時代を考える

現在のあらゆる分野において世界情勢が今までにない混沌（こんとん）とした状況にあることは周知の事実です。私は約30年間という長い間、外食産業の経営に携わってきました。外資系ファストフード店（KFC、マクドナルド等）が日本に上陸した時代です。私共はKFCの加盟店として出店し、その後アメリカのカジュアルダイニングのトニーローマやハードロックカフェ、さらにオイスターバーやババ・ガンプ・シュリンプを導入する傍ら、カプリチョーザやプリミ・バチといったオリジナルのコンセプト店も開業しました。市場展開として海外、主にアメリカやオーストラリア等にも出店しました。仕事柄アメリカを中心にさまざまな国に出掛け、その国の食文化を通して多くのことを学ぶ機会を得ました。その中で、日本の若者が世界の若者に比べて、ハングリー精神が希薄であることや、未知の環境への適応能力が低いことを憂い、ニート問題等にも心を痛めていました。

60歳を機に外食産業に終止符を打ち、友人の紹介でメキシコの「キッザニア」と出会い、このコンセプトを日本に導入する決意をしました。キッザニアでは、子どもたちが職業・社会体験を通して働くことの楽しさや難しさを楽しみながら学びます。今の日本の教育は、記憶力、伝達力等に重点が置かれているように感じます。しかし子どもたちは、その持てるバイタリティ、好奇心を通して、いろいろな体験をすることで、「生きる力」を身に付ける必要があります。

さまざまな便利な物にあふれた豊かな現代は、1760年代のイギリスの産業革命から始まりました。振り返ってみれば、人力、馬力に頼っていた時代から、自然資源を掘り起こし石炭・石油、そして電力と、新たな動力が次々と生み出されました。蒸気機関車が発明され、電話、電球、自動車、飛行機と次々に新しい発明がもたらされ、それによって新たな産業も次々と誕生しました。さらに技術革新が進み、コンピュータを中心に情報革命が起きます。人口も日本を含め先進国では約4倍に膨れ上がりました。さまざまなものがゼロから生まれ、大規模な経済効果を生み、世界は爆発的な経済成長を遂げていきました。こうした背景にあるのは、すべて「人間の欲望」だと私は思っています。例えば、楽に遠くに行きたい、自由に好きな所へ旅したい、空を飛びたい、遠くの人と話をしたい等の欲望があり、それに対応した発明がありました。そしてもう新たに作るものがなくなったとき、お金をパッケージにした金融商品が生まれました。しかしこれは金融破綻によって福袋にはなり得ないことが分かりました。こうして産業革命からちょうど250年たった今、近代資本主義の時代は一区切りを迎えています。この現実を検証し、今後われわれはこの人間社会を中心とした世界にどう向き合うのかを考える時代に来ていると思います。

発展途上国においては、モノの充足感を満たすべく経済発展が期待されますが、ヨーロッパ、アメリカ、日本等の先進国は、いわゆる近代資本主義の下、モノを中心とした産業・生活面等において、国・人とも一定の充足感が得られ、GDPは現状維持が続くと思われます。さらに、グローバルな視点から見れば、人々のモノに対する欲望が薄れてくる中、2100年に世界の人口が100億人に増えるとなると、食料問題、医療問題、環境問題もさらに深刻さを増すことが予想され、今までの価値観だけでは対応できない時代に突入したと感じています。

これらを鑑み将来を考えた場合、子どもたちに新たな広義の教育を行うことの必要性を痛感します。いつの時代でも通用するような好奇心、創造力をどう体得するかが問われています。こうしたことを経済同友会の皆さまと、今後意見を深めさせていただければ幸甚です。

住谷 栄之資
KCJ GROUP
取締役社長兼CEO